

第 211 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

謙虚に努力する ～ 優雅な感情を養う ～

2023年10月31日、韓国のみョンジ(Myongji)大学での『第1回 メディカルカフェ in ソウル』：樋野興夫博士招待』に招待された。韓国の人は、内村鑑三(1862-1930)を大変尊敬にされていることが今回気付かされた。大変貴重な時となった。

11月2日午前『恵泉女学園創立94周年記念式』に赴いた。筆者は新渡戸稲造(1862-1933)(添付)から学んだ河井道(1877-1953)(添付)が、創立(1929年)した恵泉女学園の9代目理事長を拝命することになり、今回『挨拶』する機会が与えられた。新渡戸稲造の『優雅な感情を養うは、他人の苦痛に対する思いやりを生む。しかして他人の感情を尊敬することから生ずる謙遜・慇懃(いんぎん)の心は礼の根本をなす』が鮮明に蘇って来た。

今回の記念講演は、上野千鶴子先生の『Girls be Ambitious! ガラスの天井を超えて』であった。筆者が、小学生の卒業式で聴いた『Boys be ambitious』(1877年 札幌農学校のクラーク博士:1826-1886の言葉)の精神であろう！上野千鶴子先生から新刊を2冊頂いた。

午後はルーテル学院大学での講義『現代生命科学II』に向かった。教科書『カラーで学べる病理学』を用いて、第5章『炎症』 & 第6章『免疫とアレルギー』を音読しながら進めた。真摯な学生の姿勢には大いに感激した。【『広々とした病理学』とは、『病理学には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージ』】は、筆者の癌研時代の恩師：菅野晴夫(1925-2016)先生から学んだものである。

11月3日(文化の日)は、学士会館で毎年開催されている『南原繁シンポジウム』である。筆者は、現在、2004年にスタートした南原繁研究会の3代目の代表を仰せつかっている。今回は、『第20回南原繁シンポジウム：南原繁における政治と宗教 — 南原繁再考(その1) —』である(画像)。日々勉強である。

第20回南原繁シンポジウム

南原繁における政治と宗教

——南原繁再考（その1）——



2023年11月3日（金・文化の日）

会場：学士会館

主催：南原繁研究会

後援：岩波書店、学士会、東京大学出版会、公共哲学ネットワーク

協賛：富山県立小杉高等学校同窓会